

令和 8 年度秋季中濃飛驒支部高校野球大会 実施要項
【第 7 9 回秋季岐阜県高等学校野球大会 中濃飛驒地区大会】

- 1 主 催 岐阜県高野連・岐阜県高野連中濃飛驒支部
- 2 開催期間 令和 8 年 8 月 1 1 日（火）～
- 3 試合会場 河上薬品スタジアム・カヤバスタジアム・郡上市合併記念公園市民球場
- 4 実施方法
 - ① 1 6 チームによるトーナメント方式にて実施する。
 - ② 上位 4 チームを第 7 9 回秋季岐阜県高等学校野球大会の地区シード校に決定する。
 - ③ 東濃高校は不参加とする。
 - ④ 高山工業高校・飛驒神岡高校は連合チームで参加する。
 - ⑤ 加茂高校・八百津高校は羽島高校・山県高校・瑞浪高校との連合チームで岐阜地区大会に参加する。
 - ⑥ 9 回終了後同点の場合は、延長 1 0 回よりタイブレーク（ノーアウト 1 ・ 2 塁で継続打順）を実施する。タイブレークは勝敗を決するまで実施する。
- 5 抽選方法
 - ① 選手権岐阜大会のベスト 8 以上をシード校とする。
 - ② シード校以外については、受付順に抽選を行う。
- 6 開始時間

	第 1 試合	第 2 試合	第 3 試合
3 試合の場合	8 : 4 5	1 1 : 2 5	1 4 : 0 5
2 試合の場合	8 : 4 5	1 1 : 2 5	
1 試合の場合	8 : 4 5		

※協議の上、試合時間を早める場合がある。
- 7 選手登録
 - ① ベンチ人員については、選手 2 0 名・責任教師 1 名・監督 1 名・副部長 1 名と、記録員 1 名の計 2 4 名とする。
 - ② 毎試合ごとに選手登録用紙を球場責任者及び当番校の先生に提出する。また、毎試合ごとに選手登録を変更することを認める。
- 8 申し合わせ事項
 - ① 健康面を考慮し、原則として 3 日間連続の試合は実施しない。
 - ② 全試合でコールドゲームを適用する。（5・6 回→1 0 点差／7・8 回→7 点差）
 - ③ 降雨・日没の場合、地区理事・審判部（責任審判）・該当校責任教師による協議の上、継続試合となる場合がある。
 - ④ 日没 3 0 分前からは、新しいイニングには入らないこととする。
 - ⑤ 雨天時、グラウンド状態の不良時、時間遅延等により試合前にシートノックと 5 回終了時のグラウンド整備を実施しない場合がある。
 - ⑥ 雨天・日没等により試合が消化できなかった場合は、原則として翌日に順延して消化し、以降の日程についてはスライドする。
 - ⑦ 本部席への立ち入りは、球場責任者及び当番校の関係者のみとする。
 - ⑧ 球場外でのウォーミングアップ時は、バット・ボールの使用を禁止する。
 - ⑨ 試合球は S S K（県大会使用球）とする。部顧問会議にて各校 1 ダースを配布する。各校、試合前に 4 球ずつ球場責任者及び当番校の先生に提出する。試合途中の追加分や 4 試合目以降については支部（運営本部）より支給するため、追加提出は不要。また、投手のロジンバックについては、支部より支給する。
 - ⑩ 試合前のシートノック時の補助員は 5 名とする。
 - ⑪ 試合前のシートノック時の補助員、バット引き等補助の選手、ベースコーチについては必ずヘルメットを着用する。
 - ⑫ ベンチ入り選手が 1 2 名に満たない学校については、補助員として引退した 3 年生部員のベンチ入りを 3 名まで認める。ただしベンチ入り選手は合計で 1 2 名までとする。3 年生部員がベースコーチをすることは認めないが、伝令を行うことについては認める。3 年生部員をベンチ入りさせる場合は、選手登録用紙に明記し、試合前のトスの際に説明の上、球場責任者、相手校責任教師、担当審判員の了解を得ること。

⑬試合当日の役割分担は以下の通りとする。

- ・第1試合前のグラウンド整備、ライン引き等の準備は両校で協力して行う。5回終了時の整備も同様とする。勝利チームは試合後のグラウンド整備を行う（原則、背番号の付いた選手が行う）。
- ・各試合の1塁側校はボールパーソン2名とライト線ボールパーソン1名を、3塁側校は放送1名、ボールカウント1名とレフト線ボールパーソン1名を出す。人数不足により補助員を出せない場合は、両校及び球場責任者と相談する。
- ・各試合終了後、各チームで使用したベンチ内及び控室、トイレを清掃する。

⑭投球制限（1週間で500球）について

- ・試合終了後、両校（本部）のスコアを照合し、各投手の投球数を確定させる。それを球場責任者及び当該校以外の第三者が確認する（本部確認欄に押印又はサイン）。
- ・（各チーム2試合目以降の試合前の）先攻・後攻決定時に、投球数確認表をメンバー用紙と一緒に提出し、「1週間で500球」を超過する場合や当該試合で超過する可能性があるかどうかを（球場責任者・球審・相手校の責任教師が）確認する。
- ・投球可能数が150球を下回る場合は、球場責任者及び当番校の部顧問、控え審判員でその投手の投球数をカウントし、（残り少なくなってきたら）投球可能数を球審と当該校の監督に伝える。当該校の監督は、その投手の投球数が超過する前（打席が完了していない場合は完了後）に降板させなければならない。

⑮試合がある両校以外の学校が偵察目的でビデオ撮影を行うことは禁止とする。記録用として自校の試合の撮影を行う場合は、各校3台以内とする。

⑯中止決定は第1試合開始の3時間前とし、支部理事に一任する。

9 当番校の任務

各試合の1塁側校を該当試合の当番校とする。以下の通り運営に協力するとともに、次試合の当番校への引継ぎ等は確実に行うこととする。

①試合準備（本部設営、飲料水の準備等）・・・第1試合当番校

②審判員交通費支払い準備・・・第1試合当番校

③試合運営（審判員への給水等）・・・各試合当番校

④審判員交通費支払い（審判員が帰る際に）・・・各試合当番校

⑤試合結果報告書記入・・・各試合当番校

⑥試合結果報告（中飛LINEアップ）・・・最終試合当番校

⑦会計報告書作成、保管（会計担当へ提出）・・・最終試合当番校

※会計担当袋（会計報告書・残金等）は井戸（八百津）か篠田（東濃）か平子（関有知）に提出、返却してください（必ず直接渡していただくようお願いいたします）。

10 顧問審判担当校

2試合の場合	第1試合	第2試合の3塁側のチーム顧問1名
	第2試合	第1試合の3塁側のチーム顧問1名
3試合の場合	第1試合	第3試合の3塁側のチーム顧問1名
	第2試合	第1試合の3塁側のチーム顧問1名
	第3試合	第2試合の3塁側のチーム顧問1名

11 運営責任者

篠田祥史（東濃高校）

※中止連絡・日程変更等の連絡について

原則中飛LINEで行います。

美濃地区6校→平子（関有知）から該当校責任教師へ

可茂地区9校→篠田（東濃）から該当校責任教師へ

飛騨地区6校→反中（高山工）から該当校責任教師へ